

2024年 10月 13日 << 聖餐式 >>

主 日 礼 拝

①8時半 ②10時半 ③夜7時

司 会

②石井 潤師

奏 楽

祈 禱

②石井 洋子姉

賛 美

聖歌232番「つみとがをゆるされ」

～イエスは愛で満たす～

平和の祈り

聖書朗読

使徒行伝21章7～14節

特別賛美

ハンナ会

メッセージ

「死ぬほどの覚悟」

石井 潤 牧師

聖 餐 式

賛美「主イエスの十字架の血で」

献 金

聖歌229番「アメイジンググレイス」

賛 美

～ハレルヤ アーメン～

祝 禱

お知らせ

〔司会者〕

賛 美

～生ける限り～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします! ☆  
《今週のお知らせ》

☆本日は聖餐式を通して主の十字架の恵みを覚えます! 午後は聖歌隊練習です。

★明日午後2時～、大川先生ご夫妻をお迎えしての秋の聖会です。1時に集合。

☆祈禱会は、①明朝6時(早天)。②木曜午前10時半と夜7時半。③土曜夜8時。

★来週の日曜礼拝(祈:小山姉)後、12時半～「秋の召天者記念礼拝」(納骨堂前)。

☆★一年に一回聖書を完読できる! Bible Reading Plan [10/13- /20] ☆

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
聖書箇所	イザヤ 22-25	26-28	29-32	33-36	37-39	40-42	43-45	46-49
チェック	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇〇

## 「死ぬほどの覚悟」

～私たちは終日死に渡されている。だから主を体験できる。～

「苦しみにあったことは、わたしに良い事です。これによってわたしはあなたのおきてを学ぶことができました。」  
詩篇119篇71篇

パウロはエルサレムに向かっていた。しかし、聖霊を通して、パウロ自身もエルサレムに行けば、苦しめられることを示されていました。それでも、彼は死を覚悟で、この道を進まねばならないことを自覚していました。だから、誰も彼を止められませんでした。何のために死ぬ覚悟があるのか？それは「主イエスの名のため」とであると明言しました。

それとは逆に、多くのユダヤ人たちがエルサレムでパウロを待ち構えていて、亡き者にしようとならっていました。エルサレム教会のリーダーであるヤコブからの情報によれば、それらのユダヤ人たちは、エルサレムでクリスチャンになった数万にも及ぶユダヤ人たちということです。同じクリスチャンで、主イエス様の救いを受けたにも関わらず、パウロのやり方に大きく反対する者たちがいたということ。しかし、それらは、以前にエルサレム会議で決定されたことで、異邦人クリスチャンたちを認めたと決定がなされたはずだったのに、どうしてこのように「ユダヤ主義」が強硬に進んでいってしまったのか？それは、彼らのもとの信仰によるものでもありますし、それは、パウロと同様であり、彼も律法に厳格なパリサイ人でもありましたから、全く変わらないと言えます。しかし、パウロとの決定的な違いは、主イエス様の御名こそが救いであるということを経験していたということです。主イエス様の光によって救われたこともその大きな変化の原因でもあります。彼の信仰の歩みの中で、嫌というほど、主イエス様の御名の力を体験させられたということが大きいと思います。それらの体験は、古い皮袋である自分自身が最も大切にしてきた律法を凌駕するものであることを自覚させられた出来事だったからです。パウロは多くの困難を経験してきましたが、それらの体験を通して、主の守りと励ましと力を経験していききました。生きた信仰を常に味わい続けたのです。

信仰が考え方だけに留まらないようにしなければなりません。しかし、人間は弱いです。「主よ、助けてください！」と叫ぶざるを得ない状況に導かれます。その度に、主が直接私たち一人一人を守り、助け、支え、励ましてくださるということを体験することができます。私たちはもっとも体験していかなければならないと思っています。困難や苦しみがなければ、私たちはとても鈍いですから、生きた神様を体験することが難しい存在です。どうして、苦しみがあのか？それは、私たちが弱くなるため。「戦え！」と言われても、しばらくは頑張れるかもしれませんが、やがては力尽きます。自分の力には限界があるからです。そして、初めて、私たちは我に返り、真実の愛に目が開かれます。その愛こそが、父の愛、キリストの十字架の愛です。

主は、私たちが真実の愛を悟ることを願っておられます。ですから、問題や病や苦しみに出会った時には、主に感謝しましょう！なぜなら、主が私たちに現れてくださろうとしておられるからです。詩篇の記者が冒頭の御言葉で語られたことは真実です！